

ほんえほん

はづめ・じゅん



エリサ・バスコフ:作・絵 あめぞら:訳

(1977年発行
福音館書店 ¥1,300)

『ブルーベリーモリでのアッテのぼうけん』これは、エリサ・バスコフのファンタジーの絵本です。

アッテという男の子がある日お母さんのおたんじょうびのプレゼントにぼうしとブルーベリーとこけももを摘みに森へかえります。

けれど、どこにあるのかわからずに迷っていると、こびとのおじいさんがでてきて、アッテをブルーベリーとこけもものあるところまでつれていってくれました。

そして、最後には、アッテはそらをちやんとお母さんにプレゼントがすることが出来る...という楽しくてかわいらしいお話です。

しかし、内容はさほど。この絵本の表紙をゴザンに「あつて」しびやうにされた方も、少くはないのでは「あつて」しびやうか？

かわいい内容にもかわからず、その表紙を飾るのは、とてもリズリズと、カタツム、両脇には、何やら「ゲジゲジ」のうしろのまひいます。

このような物語絵本の表紙。あつて日本の絵本では見られず、いふに思ひます。

ページをめくると... 出てくるわ、出てくるわ... トカゲにアトムシ、バツルンとナメクジ。

それも、そのほか、彼はこびとのおじいさんにこびとサイズにしてもらい、一緒にブルーベリーを採りに行ったのであつて。つまり、これは「ミクロハイク」の本なのです。

絵の背景に描かれているいもものたちは、擬人化して、テラコッタのものではなく、限定的に、現実近く描かれていて、とても興味深いものであつて。

装丁も美しく、色彩豊かな画集のうしろ、この本を開いて、あつてもアッテと共に「ミクロハイク」に出かけませんか？

導入のとき楽しいですね。

(観察会で「ミクロハイク」を観る際にこの絵本を使ひます)

